

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 新設組織の概要	2
①新設組織の概要	
②新設組織の特色	
(2) 人材需要の社会的な動向等	3
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	
③新設組織の主な学生募集地域	
④既設組織の定員充足の状況	
(3) 学生確保の見通し	10
①学生確保に向けた具体的取り組みと見込まれる効果	
②競合校の状況分析	
③先行事例分析	
④学生確保に関するアンケート調査	
⑤人材需要に関するアンケート調査等	
(4) 新設組織の定員設定の理由	17

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要

新設する生命科学部 医療技術学科の概要を以下に示す。

(表 1) 新設組織の概要

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
岡山理科大学 生命科学部 医療技術学科	70	—	280	岡山県岡山市北区理大町 1 番 1 号

②新設組織の特色

○養成する人材像

医療技術学科（以下「本学科」）は、生命科学の基礎を学び、生物学と化学あるいは生物学と物理学を基盤とした確かな学問的能力を形成し、実践的な学問として臨床検査学あるいは臨床工学を体系的に学ぶことで、EBM（Evidence-Based Medicine:根拠に基づく医療）※を理解し実践する力を培い、さらに自主的学修を習慣として身につけることで、医療人としての誇りを醸成し卒業後も研鑽を重ねて生涯学び続けることができる人材の養成を目的とする。

以上の人材養成の方針及び定めた卒業認定・学位授与の方針に基づき、卒業要件を充足した者に、学士（生命科学）、学位の分野（保健衛生学関係（看護学関係およびリハビリテーション関係を除く。））の学位を授与する。

※根拠に基づく医療とは:

単に研究結果やデータだけを頼りにするものではなく、「最善の根拠」と「医療者の経験」、そして「患者の価値観」を統合して、患者さんにとってより良い医療を目指そうとするもの。

厚生労働省『「統合医療」に係る 情報発信等推進事業』ホームページより

<https://www.ejim.ncgg.go.jp/public/hint2/c03.html>

○新設組織の特色

バイオサイエンスとその応用分野について学ぶ生物科学科を擁する生命科学部に本学科を設置することで、初年次に生命科学の基本を理解するための学部共通の入門科目（「生命科学概論Ⅰ・Ⅱ」、「生命科学のための生物学」など）を開講することで、生命科学における様々な視点を知ることができ、専門科目を学ぶための広い基盤を築くことが可能となる。

さらに専門的な学問として臨床検査学あるいは臨床工学などを教育することで、学生は根拠に基づく医療を理解し実践する力を培うことができる。臨床検査学コースでは生物学と化学を基盤に臨床検査に必要な医科学を幅広く学修し、さらに臨床検査を実施するための知識・技術を集中的に身につけさせる。その上で学内実習・臨地実習を通じて、実践的

な総合力を培う。臨床工学コースでは基礎医学と電気工学・医用工学を併行して学修することにより、臨床工学技士・ME 技術者として必要な知識・技術を効率よく身につけさせる。その上で学内実習・臨床実習を行うことにより、臨床現場で通用する実践的な専門知識・技術を培う。また、臨地実習・臨床実習などの医療機関での学修に必要な医療技術に関する総合的な理解と基本的な手技を学生が自主的に身につけることができるように、臨床検査学・臨床工学の基礎的な医療機器とシミュレータ等を整備したスキルラボを新たに準備し学生が主体的に活用できるようにする。本学科では学生の研究活動に力を入れており、両コースとも特別研究を行うことで医療技術者としてだけでなく、医療人に必要なサイエンスマインドと自主的学修の習慣を身につけ、EBM（根拠に基づく医療）の実践に必要な情報を収集し、整理する能力を習得させることが可能となる。このようなカリキュラムを体系的に学ばせることで、EBM（根拠に基づく医療）を理解し実践する力を身につけさせることができる。

本学科の特色は、下記①～③である。

①生命科学を基盤に医学、理学、工学を幅広く学ぶ

②入学後のコース選択も可能、1年次後期開始まで進路選択を相談できる

③病院実習・資格取病院実習・資格取得につながる多様な自主学修システム（CBT、臨床能力試験*などにも対応）を整備

*CBT（Computer Based Testing）、臨床能力試験はどちらも実践的な知識・能力を評価するための共用試験とその演習

○廃止する既設組織

本学科の設置に伴い、既設の理学部 臨床生命科学科及び工学部 生命医療工学科を募集停止し、2学科合わせた入学定員 75 人のうち 70 人を本学科へ移行する。

（表 2）廃止する既設組織の概要

既設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
岡山理科大学 理学部 臨床生命科学科	50	—	200	岡山県岡山市北区理大町 1 番 1 号
岡山理科大学 工学部 生命医療工学科	25	—	100	岡山県岡山市北区理大町 1 番 1 号

（2）人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

近年の医療技術の発展と医師から他の医療職へのタスク・シフト（業務移管）などに対応するため、臨床検査技師及び臨床工学技士の教育カリキュラムが大幅に見直され、より

臨床現場に必要な知識や技術を身につけて卒業することが求められている。

さらに現在の医療技術分野において、理学、工学、医学などの幅広い異分野の連携が強く求められており、本学科で扱う臨床検査学と臨床工学も、生物学と化学あるいは生物学と物理学の融合による生命科学の臨床医学への応用分野である。臨床検査技師と臨床工学技士の資格を活かして医療技術者として活躍するためには、EBM（根拠に基づく医療）を理解して実践する人材が求められている。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

全国の令和 7（2025）年から令和 16（2034）年の 18 歳人口予測は、（表 3）のとおり、経年的に減少し、109.1 万人から 100.6 万人へと 8.5 万人の減少を予測する。

本学科を設置する中国エリアの 18 歳人口予測も、ほぼ全国の動向と合致した変化を予測する。この中国エリアに四国エリア、九州・沖縄エリア、兵庫県を加えたエリアが、獣医学部を除いた岡山理科本学（以下「本大学」）の考える募集エリアである。実際本学においては、平成 31（2019）年度から令和 5（2023）年度の沖縄県からの志願者は、5 年平均で 121.8 人、入学者は 20 人となっている。中国エリア、四国エリア、九州・沖縄エリアの 3 エリアの 18 歳人口は、令和 7（2025）年度を 100 とした場合、完成年次の令和 10（2028）年度 99.4 とわずかな減少に留まると予測する。

（表 3）全国の令和 7（2025）年～令和 16（2034）年の 18 歳人口予測人数（単位:万人）

年度		2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
全体	人数	109.1	109.3	108.4	106.8	106.9	105.0	103.5	102.4	101.4	100.6
	指数	100.0	100.2	99.4	98.0	98.0	96.3	94.9	93.9	92.9	92.2
中国	人数	6.5	6.5	6.4	6.4	6.4	6.3	6.2	6.1	6.0	5.9
	指数	100.0	100.4	98.7	98.3	98.8	97.2	95.4	94.3	92.4	91.5
四国	人数	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8
	指数	100.0	98.8	98.6	96.7	96.3	95.6	93.2	91.6	90.0	87.9
九州 沖縄	人数	13.4	13.6	13.6	13.4	13.6	13.5	13.2	13.2	13.0	12.9
	指数	100.0	101.7	101.9	100.6	102.1	100.7	99.0	98.6	97.0	96.4
3 エリ ア計	人数	23.1	23.3	23.2	22.9	23.1	22.8	22.4	22.2	21.8	21.6
	指数	100.0	100.9	100.6	99.4	100.4	99.0	97.2	96.4	94.7	93.9

※出典:リクルート進学総研「マーケットレポート 2022」18 歳人口予測（全体:エリア別）【資料 1】

※（表 3）の人数は、百の位を四捨五入して単位を万人とした。また指数は、令和 7（2025）年度の元データを 100 とした。

令和 5（2023）、令和 2（2020）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）によると、保健系統の志願者動向は（表 4）のとおり令和元（2019）年度学部数 236、志願倍率 5.26、入学定員充足率 100.81 だったものが、令和 5（2023）年度には学部数 272、志願倍率 4.22、入学定員充足率 96.79 と志願倍率、入学定員充足率を若干

低下させている。保健系統の志願者数は、令和元（2019）年度 188,352 人から令和 5（2023）年度 171,927 人と 8%程減った上、学部数が 36 学部増加したため需給バランスが悪化した。

【資料 2】 【資料 3】

また、保健系統を学部ごとに細分化すると、医療技術学部では令和元（2019）年度において志願倍率 6.53、入学定員充足率 98.62【資料 3】が、令和 5（2023）年度において志願倍率 5.63、入学定員充足率 99.82【資料 2】となり、ほぼ定員を充足している。

これらのことから、学問系統別志願者動向からは入学定員充足率はほぼ 100 であり、本学科の想定する募集エリアの 18 歳人口が、令和 7（2025）年度を 100 とすると、令和 16（2034）年度 93.9 と、全国の 92.2 よりも若干緩やかな減少となっている。その要因は九州・沖縄エリアの減少幅が小さいことである。新設組織においては、九州・沖縄エリアでの広報に注力し、定員充足をはかる。

（表 4）保健系統の志願者動向

年度	2019	2020	2021	2022	2023
学部数	236	244	254	266	272
志願倍率	5.26	5.38	4.93	4.66	4.22
入学定員充足率	100.81	101.34	99.97	99.28	96.79

※出典:令和 5 年度私立大学・短期大学等入学志願動向【資料 2】（日本私立学校振興・共済事業団）

③新設組織の主な学生募集地域

令和 5（2023）年度の岡山県にある大学（全体）への入学者の出身県上位 5 都道府県は、【資料 4（別紙 1）】及び（表 5）のようになる。同様に国立大学は（表 6）、私立大学は（表 7）、本大学全体は（表 8）、前身の理学部 臨床生命科学科と工学部 生命医療工学科の合算は（表 9）となる。

これらを考察すると、すべての区分で地元「岡山」が首位を独占し、2 位から 4 位には「広島」「兵庫」「香川」が並び順を変えて登場する。もともと大学全体で「岡山」の構成比が 37.6%（表 8）と、岡山県にある大学（全体）の入学者の 44.6%（表 5）を大きく下回り、岡山県にある大学（国立）の 32.1%（表 6）に近いものとなっているが、これは臨床生命科学科+生命医療工学科においても同様に 38.8%（表 9）にとどまる。また、「岡山」「広島」「兵庫」「香川」の構成比の合計は、岡山県にある大学（全体）が 68.7%（表 5）、岡山県にある大学（国立）が 61.6%（表 6）、岡山県にある大学（私立）が 72.1%（表 7）、令和 5 年度本大学（全体）63.1%（表 8）、そして令和 5（2023）年度本大学 臨床生命科学科+生命医療工学科が 59.2%（表 9）で、県内の他大学に比べて広域から入学者を受け入れていることがわかる。

新設組織が置かれる都道府県への入学状況は、別紙 1 のとおりである【資料 4】。

(表 5) 岡山県にある大学(全体)の入学者出身県上位 5 都道府県

順位	都道府県	入学者数	構成比
1	岡山	3,942	44.6%
2	広島	801	9.1%
3	兵庫	700	7.9%
4	香川	627	7.1%
5	愛媛	314	3.6%

※出典:学校基本調査 令和 5 年度 16 (4-1) 岡山県内大学(全体) 出身高校の所在地県別入学者数

(表 6) 岡山県にある大学(国立)の入学者出身県上位 5 都道府県

順位	都道府県	入学者数	構成比
1	岡山	736	32.1%
2	兵庫	397	17.3%
3	広島	151	6.6%
4	香川	129	5.6%
5	愛媛	128	5.6%

※出典:学校基本調査 令和 5 年度 16 (4-2) 岡山県内大学(国立) 出身高校の所在地県別入学者数

(表 7) 岡山県にある大学(私立)の入学者出身県上位 5 都道府県

順位	都道府県	入学者数	構成比
1	岡山	2,949	49.4%
2	広島	611	10.2%
3	香川	481	8.1%
4	兵庫	261	4.4%
5	愛媛	170	2.8%

※出典:学校基本調査 令和 5 年度 16 (4-3) 岡山県内大学(私立) 出身高校の所在地県別入学者数

(表 8) 令和 5 年度本大学(全体)の入学者出身県上位 5 都道府県

順位	都道府県	入学者数	構成比
1	岡山	569	37.6%
2	広島	163	10.8%
3	兵庫	114	7.5%
4	香川	109	7.2%
5	徳島	45	3.0%
5	高知	45	3.0%

(表9) 令和5年度本大学 臨床生命科学科+生命医療工学科の入学者出身県

上位5都道府県

順位	都道府県	入学者数	構成比
1	岡山	19	38.8%
2	高知	5	10.2%
3	広島	4	8.2%
4	香川	3	6.1%
4	兵庫	3	6.1%

従来より、理学部 臨床生命科学科及び工学部 生命医療工学科の2つの医療技術系学科の存在を地道な高校訪問によってPRしてきたが、コロナ禍による高校訪問の停止は、入学者数に大きな影響を与えた。特に令和4(2022)年度に臨床生命科学科はそれまでの定員95人を50人に、生命医療工学科は定員60人を25人に減じ、医療系資格の取得を目指す学科に特化した。しかしながら、学科名称を従来のままとしたため、そうした変更の告知が十分に行えなかった。

新設する医療技術学科においては、既存の理学部 臨床生命科学科、工学部 生命医療工学科を統合し、2学科合わせて定員75名をさらに70名に減じ、前述の特色を加えた学科とする。したがって、これまでと同様実績のある中四国地域と兵庫県、さらには今後18歳人口の減少が比較的緩やかな九州・沖縄の各県を募集地域に設定する。

(表10) のとおり、平成31(2019)年度からの5年間の入学者数の平均(84.4人)は今回設定した定員(70人)を上回っている。コロナ禍前の平成31(2019)年度入試では今回予定する定員70名に対して1.44倍の101人の入学者となっている。したがって、設定した定員及び学生募集の対象地域は、妥当であると考え。

(表10) 前身となる2学科の定員と入学者数、入学定員充足率の状況について

年度		2019	2020	2021	2022	2023
臨床生命科学科	定員	95	95	95	50	50
	入学者	67	61	45	45	40
	充足率	0.71	0.64	0.47	0.90	0.80
生命医療工学科	定員	60	60	60	25	25
	入学者	34	49	36	36	9
	充足率	0.57	0.82	0.60	1.44	0.36
合計	定員	155	155	155	75	75
	入学者	101	110	81	81	49
	充足率	0.65	0.71	0.52	1.08	0.65

④既設組織の定員充足の状況

既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近5年間）は、別紙2のとおりである【資料5】。直近5年間の本大学全体の入学定員の充足状況（表11）は、平成31（2019）、令和2（2020）年度まではほぼ定員を確保しているが、それ以降は定員に届かない状況となっている。要因としては、18歳人口の減少、系統の志望者の減少、競合大学の増加もあるが、県外出身者の多い本学科においては、コロナ禍において高校訪問ができなかった影響も大きい。

本大学を構成する8学部20学科のうち、令和5（2023）年度入試において入学定員を確保したのは、理学部動物学科【資料5（別紙2-5）】、工学部情報工学科【資料5（別紙2-9）】、生物地球学部生物地球学科【資料5（別紙2-15）】、経営学部経営学科【資料5（別紙2-18）】、獣医学部獣医学科【資料5（別紙2-19）】、獣医学部獣医保健看護学科【資料5（別紙2-20）】の6学科であり、残りの14学科は定員未充足の状況である。なお、残りの14学科の内の9学科は定員を充足した年度もあることから、恒常的に入学定員を確保するため、学科の魅力・特色のアピールや高校生の興味を引くような取り組みを行っている。また、5年間連続で定員を充足できなかった学科は理学部物理学科【資料5（別紙2-3）】、理学部臨床生命科学科【資料5（別紙2-6）】、工学部応用化学科【資料5（別紙2-10）】、教育学部中等教育学科【資料5（別紙2-17）】の4学科である。このうちの理学部臨床生命科学科は、本学科の設置に伴い廃止を予定しており、また教育学部中等教育学科は、同時期に入学定員10人の減を予定している。

（表11）本学全体の入学定員の充足状況（直近5年間）

年度		2019	2020	2021	2022	2023
大学全体	定員	1,815	1,815	1,815	1,815	1,815
	入学者	1,752	1,825	1,506	1,694	1,514
	充足率	0.97	1.01	0.83	0.93	0.83

○令和5（2023）年度 収容定員充足率が0.7倍未満の学科について

令和5（2023）年度の収容定員充足率が0.7倍未満の学科は、理学部化学科（表12）、臨床生命科学科（表13）、工学部応用化学科（表14）、教育学部初等教育学科（表15）、中等教育学科（表16）の5学科であり、それぞれの学科の定員未充足の原因については次のとおりである。

理学部化学科（表12）は、【資料5（別紙2-4）】のとおり、総合型選抜と学校推薦型選抜の入学者数は平成31（2019）年度が17人に対して令和5（2023）年度は14人と17.6%の減に対して、一般選抜、共通テスト利用入試での入学者数は41人が26人で36.6%の減と大きく減少している。この学科は理学部の中では、比較的多くの大学に設置されている学科である。それがゆえに上位志望大学に合格、入学することで辞退者が多く、苦戦を強

いられている。

教育内容を知ってもらい志望度を上げる対策として、高校生を対象とした化学実験教室を令和 4（2022）年度より開催。また企業・公的機関での研究職を目指し、大学院へ早期進学を目指す「大学院早期進学コース」のアピールも実施している。

（表 12）理学部 化学科の令和 5 年度収容定員充足率

在籍学生数	収容定員	収容定員充足率
186	300	0.62

理学部 臨床生命科学科（表 13）は【資料 5（別紙 2-6）】のとおり、平成 31（2019）年度時点で、入学定員充足率は 0.71 となっている。これは、平成 29（2017）年度に、（3）の②で後述する競合他大学の川崎医療福祉大学に臨床検査学科（定員 60 人）が開設された影響が大きい。入学定員充足率は令和 3（2021）年度に 0.47 まで低下したことにより、令和 4（2022）年度入学定員を 95 人から 50 人へと減じることにより 0.90 へと充足率は上昇した。ただし学科名称を従来のままとしたため、臨床検査技師資格取得を目指すことに特化したことを伝えきれていない。

令和 7（2025）年 4 月に向け理学部 臨床生命科学科と工学部 生命医療工学科を統合し、学科内容を的確に称した生命科学部 医療技術学科の開設を構想しており、こうした状況は改善するものとする。

（表 13）理学部 臨床生命科学科の令和 5 年度収容定員充足率

在籍学生数	収容定員	収容定員充足率
187	290	0.64

工学部 応用化学科（表 14）は、令和 4（2022）年度のバイオ・応用化学科からの名称変更併せて入学定員を 85 人から 60 人へと減少させた。その際、好適環境水、化粧品、バイオ関連といった人気分野を生命科学部 生物科学科に移管した。その影響で、【資料 5（別紙 2-10）】のとおり、それまで 0.73～0.88 で推移していた入学定員充足率は、令和 4（2022）年度 0.57、令和 5（2023）年度 0.53 と低下した。

今後、本来の応用化学分野の教育、研究を広域的に広報することで、定員の 60 人の充足を見込む。

（表 14）工学部 応用化学科の令和 5 年度収容定員充足率

在籍学生数	収容定員	収容定員充足率
191	290	0.65

教育学部 初等教育学科（表 15）は、近隣競合大学の影響を受け、【資料 5（別紙 2-16）】

のとおり、令和 3（2021）年度以降経年的に入学定員充足率を悪化させた。「岡山理科大学」という大学名が文系である教育学部の存在をイメージさせないことも一因と考える。

令和 7（2025）年度定員の 10 人の縮小と併せて、初等教育学科における教育内容の具体例を広報することで、収容定員の充足を見込む。

（表 15）教育学部 初等教育学科の令和 5 年度収容定員充足率

在籍学生数	収容定員	収容定員充足率
194	280	0.69

教育学部 中等教育学科（表 16）は、近隣競合大学の影響を受け、【資料 5（別紙 2-17）】のとおり、令和 3（2021）年度以降入学定員充足率を悪化させた。令和元（2019）年度から令和 5（2023）年度の直近 5 年間の教員採用試験合格者数が 3～8 人と少ないことに加え、「岡山理科大学」という大学名が文系である教育学部の存在をイメージさせないことも一因と考える。

令和 7（2025）年度定員の 10 人の縮小と併せて、中等教育学科における教育内容の具体例を広報することで、収容定員の充足を見込む。

（表 16）教育学部 中等教育学科の令和 5 年度収容定員充足率

在籍学生数	収容定員	収容定員充足率
151	240	0.62

令和 5（2023）年度収容定員充足率が 0.7 倍未満の学科には、本学科の前身となる理学部臨床生命科学科が含まれている、ただし（表 10）のとおり、もう一つの工学部生命医療工学科と合算すると、平成 31（2019）年度からの 5 年間の入学者数の平均（84.4 人）は、今回設定した定員（70 人）を上回っている。また、定員を減じた際に学科名称を従来のままとしたため、臨床検査技師資格取得を目指すことに特化したことを伝えきれていないという原因分析に対しても、今回の改組は改善を見込む。したがって、設定した定員設定は、合理性があると考えられる。

（3）学生確保の見通し

既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績は、別紙 3 のとおりである【資料 6】。

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

【資料 6 (別紙 3)】にあるように、前身の学部・学科である理学部 臨床生命科学科及び工学部 生命医療工学科においては、受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、在学生との懇談、施設案内を年 5 回、オープンキャンパスとして開催することを目標とした。令和 4 (2022) 年度入試で受験対象参加者 59 人に対して受験率 54.2%、入学率 40.7%、令和 5 年 (2023) 度入試で受験対象参加者 51 人に対して受験率 66.7%、入学率 45.1%と若干好転している。コロナ禍においては、事前予約制、3 年生を対象を限定するなどの制約が多かった。しかし、本大学の建学の理念、アドミッション・ポリシーを体感してもらうよい機会であり、受験訴求のみならず、合格時の志望校順位の繰り上げに貢献している。学生募集のための PR 活動の大きな柱といえる。

また、西日本を中心とした高校・予備校訪問において、情報提供、資料配布等を実施してきた。コロナ禍においては中断を余儀なくされたが、徐々に再開し、現在においてはコロナ禍前の状態に回復している。その成果は、1,506 名の新入生を対象とした「新入生アンケート 2023」【資料 7】から見て取れる。問 8 のとおり、本学の受験や入学を決める際に誰にアドバイスを求めたかとの質問をしたところ、有効回答の 1,496 人のうち「担任の先生」と回答したのが 918 人 (61.4%)、次いで「保護者」842 人 (56.3%) 「塾・予備校の先生」258 人 (17.2%) 「進路指導の先生」206 人 (13.8%) 「教科担当の先生」171 人 (11.4%) と続いた (最大 3 つまで回答可)。同様に問 7 のとおり、本学を知ったきっかけを、最大 3 つまで回答を求めた結果も、有効回答の 1,494 人のうち「担任の先生」と回答したのが 568 人 (38.0%)、次いで「保護者」370 人 (24.8%) 「オープンキャンパス」309 人 (20.7%) 「本学のホームページ」262 人 (17.5%) 「友人や先輩」196 人 (13.1%) であった。このことから本大学に入学を検討する高校生においては、高等学校や予備校の先生の進路指導が、本大学を知ったきっかけ、入学を決める際の相談相手としては最も高いことがわかる。したがって高校・予備校訪問は、本大学の学生確保のための広報施策としては最も重要なものといえる。

イ 新設組織における取組とその目標

「新入生アンケート 2023」【資料 7】の問 7 にあるように、本大学を知ったきっかけになったのは、「高校訪問」「保護者への情報提供」「オープンキャンパス」「本大学のホームページ」「友人や先輩からの口コミ」となる。これらの募集施策において、下記のような PR 活動を実施する。新組織においても入学者の出身エリアや学力層は大きく変わらないと予測する。

(i) 「高校訪問」

再開した高校・予備校訪問については、さらに積極的に展開する。前述の「(2) 人材需要の社会的な動向等③新設組織の主な学生募集地域」にあるように、これまでと同様実績のある中四国地域と兵庫県、さらには九州・沖縄の各県を募集地域に設定し、令和 5

(2023) 年度入学者出身県の 87%のエリアで訪問を実施する。

(ii) 「保護者への情報提供」

令和 5 (2023) 年 4 月より本大学では、「大学広報」の積極展開を開始した。この「大学広報」では、大学ブランディング、研究力、科学の面白さ、インナーブランディングを中心に広報活動を実施している。大学のミッションやポリシー、最近のトピックスを発信する大学ブランディング活動は、広く一般を対象とし、保護者を含んでいる。ホームページ、動画、ミニ図鑑、マスコミを利用したわかりやすい情報発信を心掛けており、間接的であるが保護者が子供に知らしめるきっかけになると考える。目標数値については、日経BPコンサルティングによる「大学ブランド・イメージ調査（中国・四国編）」やマイナビ進学総合研究所「マイナビ進学 大学認知度・イメージ調査」の指標を経年で分析し、前年以上の指標を目標とする。

(iii) 「オープンキャンパス」

オープンキャンパスにおいては、指標として受験率 70%、入学率 50%を想定する。年間を通して、受験対象学年の参加者目標数を 80 名とし、定員 70 名に対して 40 名の入学者を確保する数字を目標とする。

(iv) 「本大学のホームページ」

本大学のホームページについては、受験生用に受験情報サイト「おかりか Go!」を開設し、在学生、保証人、卒業生、企業、そして、受験生というステークホルダーに対して、偏りなく、頻繁に情報発信できる体制となっている。Google アナリティクスを活用し、ユーザー属性やよく見られているページの分析などを実施している。また、外部のアドバイザーによる分析、助言と合わせて、逐次変更、改良を加えている。

また、インターネット広告では臨床検査技師、臨床工学技士に関心を持つ高校生に対して、ピンポイントでPRすることを展開する。地域や年齢、「臨床検査技師」「臨床工学技士」「コ・メディカル」等のワードなどを指定し、対象者を絞ることができ、比較的安価に、タイミングをみての実施が可能となっている。広域から、多彩な学科構成を展開する本大学にとって、合致した広報施策と考える。

エリアや属性を絞り込み、情報発信できることから有効な手段と考え、本大学の医療技術学科を「見つける」「関心をもってもらおう」過程で積極的に活用する。

(v) 「友人や先輩からの口コミ」

友人や先輩に口コミを期待するなら、本大学に対する学生の満足度を高めることが必要となる。在学生に対するインナーブランディング、高校生に対する「オープンキャンパス」や「進学説明会」等での満足度を高めることで、こうした口コミを誘発させていく。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

こうした広報戦略を展開することで、平成 31 (2019) 年度から令和 5 (2023) 年度入試の臨床生命科学科と生命医療工学科の 2 学科合計の平均入学者数 84.4 人 (表 10) を見込む。

ただし、18歳人口の減少は加味しなければならず、平成31（2019）年117万人、開設時の令和7（2025）年109万人、完成年次令和10（2028）年107万人と減少を予測している。この18歳人口の減少を加味した比率 $107 \div 117 = 0.91$ を84.4人の5年間の入学者平均に乗じると76.8人となり、この数字を本学科の見込み数に掲げる。

また、教育内容と学科名称との合致、競合大学との差別化の点から、新設の本学科は70人の定員を充足できる見込みであり、合理性があるといえる。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

中四国地区で臨床検査技師及び臨床工学技士国家試験の受験資格取得可能な私立大学9学科・専攻を（表17）のとおり競合他大学候補とし、本学科と比較分析、優位性を確認した。

（表17）競合他大学候補の入学定員、入学者、初年度納付金及び取得可能な資格

大学	学部	学科	専攻 コース	定員	入学者	所在 県	初年度 納付金 (円)	臨床検 査技師	臨床工 学技士
川崎医 療福祉	医療 技術	臨床 検査	-	60	72	岡山	1,785,000	○	-
川崎医 療福祉	医療 技術	臨床工	-	80	56	岡山	1,785,000	-	○
倉敷芸 術科学	生命 科学	生命 医科	-	55	45	岡山	1,785,000	○	-
広島 工業	生命	生体 医工	-	60	※1	広島	1,715,000	-	○
広島 国際	保健 医療	医療 技術	臨床検 査学	50	86	広島	1,786,000	○	-
広島 国際	保健 医療	医療 技術	臨床工 学	50		広島	1,786,000	-	○
東亜	医療	医療工	-	55	47	山口	1,611,300	-	○
徳島 文理	保健 福祉	臨床工	-	45	40	香川	1,647,300	-	○
高知 学園	健康 科学	臨床検 査	-	60	44	高知	1,557,000	○	-

※データは、各大学ホームページ、2023 蛍雪時代 8 月臨時増刊（2023 入試データ）より。

※1 広島工業大学は定員超過率 0.64 が資料としてホームページに掲載。

中四国地区で臨床検査技師及び臨床工学技士国家試験の受験資格取得可能な私立大学9学科・専攻のうち各大学のホームページに入学者数を公表している8学科の入学定員充足率は、0.86であった。また、学科名称に多くの学科が「臨床検査」や「臨床工学」という文字を入れており、こうした資格取得を志す受験生には、受験雑誌やホームページで志望

大学を検索するときヒットしやすいものと思われる。これまで、理学部や工学部の中に設置していたが、今回、岡山理科大学 生命科学部 医療技術学科 臨床検査学コース、臨床工学コースとして開設されれば、名称からの認知度は、格段に高まると考える。

所在地の類似性の観点から、競合他大学を選定した。中四国地区、さらには九州沖縄地区を本学科の募集地域に設定しているが、表 9 のとおり令和 5 年度の「臨床生命科学科＋生命医療工学科」の入学者の約 40%は岡山県出身である。また卒業生の病院等の就職先も岡山県内が中心となるため、所在地の類似性が競合他大学を設定する上で重要な要素であると判断した。従って表 17 の中で岡山県内に所在する臨床検査技師、臨床工学技士国家試験受験資格の得られる私立大学として、倉敷芸術科学大学 生命科学部 生命医科学科、並びに川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床検査学科及び臨床工学科を競合他大学に設定した。

この競合他大学と比較し、本学科は、初年度納付金を 1,530,000 円と川崎医療福祉大学、倉敷芸術科学大学の 1,785,000 円と比較し、安価に設定している。また、前述のように理学、工学、医学などの連携が強く求められている医療技術分野において、サイエンスマインドあふれる医療技術者を養成する環境として、理学部、工学部をはじめ 8 学部 20 学科を展開する本学は、差別化とともに優位性を有するといえる。

イ 競合校の入学志願動向等

競合他大学の過去 3 年間の入試動向は（表 18）のとおりである。川崎医療福祉大学の臨床検査学科においては競争率が 2.5～2.8 倍となっており、令和 5（2023）年度入試においては、230 人の不合格者を出していることがわかる。

こうした競合他大学の中に本学は新たに参入するのではなく、既に臨床生命科学科、生命医療工学科として存在していた。

（表 18）競合他大学の入学志願動向等（2021 年度～2023 年度）

大学	学部	学科	年度	志願者	受験者	合格者	入学者	入学定員充足率
川崎医療福祉	医療技術	臨床検査	2023	380	368	138	72	1.20
川崎医療福祉	医療技術	臨床検査	2022	308	302	120	71	1.18
川崎医療福祉	医療技術	臨床検査	2021	280	276	98	67	1.12
川崎医療福祉	医療技術	臨床工	2023	160	155	134	56	0.70
川崎医療福祉	医療技術	臨床工	2022	157	155	149	72	0.90
川崎医療福祉	医療技術	臨床工	2021	164	161	138	77	0.96

倉敷芸術科学	生命科学	生命医科	2023	122	119	110	45	0.82
倉敷芸術科学	生命科学	生命医科	2022	155	151	139	48	0.87
倉敷芸術科学	生命科学	生命医科	2021	181	173	153	62	1.13

※各大学ホームページより

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

川崎医療福祉大学は、臨床工学科が入学定員充足率 0.70～0.96 となっている。ただし定員は 80 名と大きく、入学者数はこの学科だけで本学科の定員と変わらないものとなる。もう一つの臨床検査学科においては、368 人の受験者中 138 人の合格者で 230 人が不合格となっている。本学科は、こうした不合格者の受け皿ともなる。

サイエンスマインドを有する医療技術者の養成を謳える学部・学科構成を有していることは、これからの医療技術者に求められる社会的動向に合致しているとともに、理学部、工学部等の志望者からの流入も促す。このことから近隣競合他大学に対して優位性があり、本学科の定員を充足できる見通しがあるといえる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本大学では、学生納付金、経常費補助金、手数料等の収入によって学部学科における教育研究活動に必要な人件費および経常的な経費を賄うことができ、完成年度以降において経常収支差額がプラスになるよう学納金を設定している。本学科は、既設の学部・学科を改組して設置するため、初年度の学生納付金は、本学の他の理工系学部に基づき、入学金 220 千円、授業料他 1,310 千円と設定する。

なお、競合他大学の学生納付金は（表 19）に示すとおりであり、本学の設定は若干安価であるが妥当なものといえる。

（表 19）競合他大学の学生納付金

（単位：円）

大学	学部	学科	入学金	授業料他	初年次納付金合計
岡山理科	生命科	医療技術	220,000	1,310,000	1,530,000
川崎医療福祉	医療技術	臨床検査	300,000	1,485,000	1,785,000
川崎医療福祉	医療技術	臨床工	300,000	1,485,000	1,785,000
倉敷芸術科学	生命科学	生命医科	220,000	1,565,000	1,785,000

※データは、各大学ホームページ、2023 蛭雪時代 8 月臨時増刊（2023 入試データ）より

③先行事例分析

今回の理学部 臨床生命科学科と工学部 生命医療工学科を統合して、生命科学部 医療技術学科を開設するという改組の先行事例として、本大学 情報理工学部 情報理工学科の改組

を通して、受験者層の変化や定員充足にどう影響するかを分析した。

情報理工学部 情報理工学科は、令和 4（2022）年に改組した。その前身は総合情報学部 情報科学科及び工学部 知能機械工学科で、その定員と入学者数、定員充足率は（表 20）のとおりである。情報理工学部 情報理工学科は、「コンピューターサイエンスコース」、「AI・データサイエンスコース」、「デジタルゲーム・メディアコース」、「AI ロボティクスコース」、「メカトロニクスコース」の 5 つのコースを設定し、前者 3 コースは総合情報学部 情報科学科を前身とし、残りの 2 つのコースは工学部 知能機械工学科を前身とする。令和 5（2023）年に歩留まり状況から 2 人の定員を欠いたが、令和 4（2022）年は定員充足率 1.04 であった。特に令和 4（2022）年の改組においては、総合情報学部 情報科学科、工学部 知能機械工学科を合わせて 155 人の定員からさらに 55 人増員している。定員を増加させた上での定員充足であり、教育内容と学科名称との合致、5 つのコースによる競合大学との差別化が効果を上げたといえる。生命科学部 医療技術学科においても、先行事例と同様の効果を期待する。

（表 20） 先行事例 情報理工学科の定員と入学者数、定員充足率

		2019	2020	2021	2022	2023
情報理工学科	定員	-	-	-	210	210
	入学者	-	-	-	220	208
	充足率	-	-	-	1.04	0.99
情報科学科	定員	100	100	100	-	-
	入学者	112	101	104	-	-
	充足率	1.12	1.01	1.04	-	-
知能機械工学科	定員	55	55	55	-	-
	入学者	51	65	50	-	-
	充足率	0.92	1.18	0.90	-	-

④ 学生確保に関するアンケート調査

本学科の志願者数に対する推測について、客観的な根拠を求めため、本学科の設置の趣旨、養成する人材像を示した上で第三者によるアンケート調査を行った【資料 8】。調査への協力を得られた高校は本大学に過去 5 年間に志願者のあった実績校と理数科設置校、SSH 認定校からの 123 校であり、回答は令和 7（2025）年度の大学入試を受験する可能性が最も高い高校生（2025 年 3 月卒業予定者）11,277 人から得ている。回答のあった 11,277 人のうち、卒業後の進路を「大学」、かつ志望する大学の設置者を「私立」かつ学びたいと考えている興味のある学問分野を「生命科学（臨床検査学、臨床工学）」と回答した者は 350 人であった。この 350 人の中で、さらに本学科を「第一志望として受験する」かつ合格した場合に「入学する」と回答した者は 72 人であった。本学科の入学定員 70 人に対して 102.9%となるこの 72 人は本学科への強い入学意欲を持つ者であると位置づけられる。

また、上記 350 人の中で、本学科を「第二志望として受験する」と回答した者が 55 人、「第三志望以降として受験する」と回答した者が 91 人おり、合格した場合に「入学する」

及び「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者が、それぞれ 55 人、91 人の合計 146 人であった。この 146 人が、志望順位が上位の他の志望校の結果次第ではあるが、本学科への入学の可能性のある層と考えられる。

以上の結果から、本学科を第一志望として入学を希望する者が 72 人おり入学定員 70 人を満たしている状況であるが、高校 2 年次での調査であり、今後変動することも鑑み、学生確保の取組を全学で積極的に行っていく計画である。

詳細は【資料 8】「学生確保の見通し調査」に示す。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

本学科の養成する人材が、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることについて、第三者による客観的なアンケート調査を行った。当該学科の卒業生の採用が見込まれる医療機関を中心とした施設・企業を対象とし、岡山理科大学「設置構想についての人材需要アンケート調査」を 986 件に送付、160 件の有効回答が得られた。その結果、本学科臨床検査学コースの養成する人材について合計 137 件（全体の 85.6%）がニーズを認め、また 139 件（同 86.9%）が採用意向を示した。もう一つの本学科臨床工学コースの養成する人材については、合計 125 件（全体の 78.1%）がニーズを認め、また 126 件（同 78.8%）が採用意向を示した。コース毎での採用可能人数は、臨床検査学コースで 168 人、臨床工学コースで 163 人であった。これは、当該学科が予定する入学定員 70 人を上回る回答結果であるため、人材需要の見通しは問題ないと考える。

詳細は【資料 9】「設置構想についての人材需要アンケート調査」に示す。

（４）新設組織の定員設定の理由

本学科は、既設の理学部 臨床生命科学科（定員 50 人）及び工学部 生命医療工学科（定員 25 人）の 2 学科を母体として開設する。両学科合わせての入学者数は、平成 31（2019）年度 101 人、令和 2（2020）年度 110 人、令和 3（2021）年度 81 人、令和 4（2022）年度 81 人、令和 5（2023）年度 49 人と、令和 5（2023）年度以外今回設定する 70 人という定員を満たしている。

前述の（1）～（3）を総括すると、理学、工学、医学などの連携が強く求められている人材需要からは、理学部、工学部、そして生命科学部を有する本学の学部構成は合致しているといえる。本学の既存学科の学生確保の見通しにおいては、令和 5（2023）年度の入学者減少は、令和 4（2022）年度に臨床検査技師、臨床工学技士取得をめざす学科とするも、学科名称を従来そのままとしたため資格に直結するイメージが付きにくかったことによるといえる。

競合他大学との比較においても、国家試験合格率を含め遜色のないものとなっている。その裏付け資料とした第三者による学生確保に関するアンケート調査、人材需要に関するアンケート調査からも客観的な根拠を得られた。

こうしたことから、このたび医療技術学科とすることで学科内容を的確に広報でき、70人の定員の設定は合理性があるといえる。